

講義名	日本事情 B【留学生科目】			授業形態	
担当教員	内山 勝久	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

この授業は、留学生を対象に、日本の政治と経済の基本的なしくみについて理解することを目的とします。日本に留学し、日本で生活する上では日本の社会や文化に関する理解は欠かせません。この授業では、日本の社会のうち、政治と経済に関する制度や課題、最近のトピックスを中心に、基礎的な事項を説明します。国際社会における日本の位置づけについても学びます。将来、日本で就職を希望する留学生にとっては必要不可欠な内容となるでしょう。受講生の数が多い場合は、各受講生が日本に関する理解を深めるために、授業で学んだ事項に関して、各受講生の母国との共通点や相違点について発表する機会も設けたいと考えています。

到達目標

各受講生が、
 (1) 日本の政治・経済に関する基本的な知識を身につけ、新聞記事やテレビのニュースを理解できるようになること、
 (2) 学んだ知識を活用して、日本人学生や社会人とのコミュニケーション能力を高められるようになること、
 (3) 日本と母国の社会の共通点や相違点を分析・考察することで新たな課題を発見したり、新しい価値を生み出すことができるようになること、
 を目指します。

提出課題

・授業の理解度を確認するための復習課題を、ほぼ毎回出題する予定です。また、中間レポート課題と期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業の中で説明します。
 ・受講生の数が多い場合は、受講生による発表を2回予定していますので、発表のための資料（PowerPointのスライドなど）を作成してもらいます（詳細については授業の中で説明します）。この場合、2回の発表のための資料作成が、それぞれ中間レポート課題と期末レポート課題になります。
 ・受講生の数が多い場合は、発表ではなく、別の中間レポート課題と期末レポート課題を出します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

・提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

・平常点（毎回の課題提出や発表の量・質など）70%、中間レポート課題15%、期末レポート課題15%の比率で評価します。

履修にあたっての注意・助言他

・この授業は、社会の制度を学ぶので、専門用語など難しい言葉がたくさん出てきます。こうした専門用語を理解するために、受講生にはコツコツと努力することが求められます。さらに、日本語の新聞を読んだり、テレビのニュース番組を見たりする習慣を身につけてください。興味を持った点は、自分で積極的に調べると効果も大です。
 ・英語等で授業をフォローしたり、スキャンで授業に無関係なサイトの閲覧に慣れることは他の学生の学習意欲を低下させますので、厳に慎んでください（集中力を維持してください）。
 ・質問があればスマホを検索するよりも教員に尋ねる方が効果的です（質問力も高まります）。質問等で発言が必要な場合は挙手の上で行ってください。

教科書

・特定の教科書は使用しません。

参考図書

・なし。

その他

・担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料（PDFファイル）は授業支援システム経由で毎回配布します。
 ・参考図書は必要に応じて授業中に適宜紹介します。

授業計画

- 第1回 イントロダクション： 授業のねらいや日本の現代社会について
- 第2回 日本国憲法
- 第3回 国会・内閣・裁判所（1）
- 第4回 国会・内閣・裁判所（2）
- 第5回 政党政治と選挙
- 第6回 地方自治
- 第7回 国際政治と日本
- 第8回 受講生による発表（1）： 政治分野
- 第9回 日本経済のあゆみ
- 第10回 消費と企業
- 第11回 貨幣と金融
- 第12回 財政と政府の役割
- 第13回 労働と社会保障
- 第14回 国際経済と日本
- 第15回 受講生による発表（2）： 経済分野

受講生の数が多い場合は、第8回の授業と第15回の授業は発表ではなく、別の内容とする予定です。
 受講生の興味・関心や理解度によって、内容を変更する場合があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・授業前には、授業で取り上げるテーマについて、自分の母国に関する状況を思い出し整理してください：約0.5時間/回。
 ・授業後は、記憶が鮮明なうちに授業の要点をノートにまとめてください：約1時間/回。その上で、授業で出された課題に取り組んでください：約1.5時間/回。さらに、授業のなかで自分が関心を持ったトピックについて新聞・経済雑誌・信頼できるウェブサイトなどで詳しく調べて、ノートにまとめてください：約1時間/回。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の「到達目標」を達成することで、留学生が卒業時に獲得しておくべき以下の資質・能力を身につけることができます。
 (1) 情報収集力、情報分析力、課題発見力を備えた「知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材」になることができる。
 (2) 「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」になることができる。
 (3) 「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」になるための基礎能力（必要な日本語能力を身につけ、活用できる能力、新聞を読んで理解できる能力、人と円滑なコミュニケーションをとることができる能力）を身につけることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・復習課題などにクリッカー（レスポンス）を利用することがあります。

実務経験の有無及び活用

備考